

## ウドの半緑化促成栽培技術の確立

### 第2報 根株養成における栽植様式

舟越 利弘・伊藤 政憲\*・黒田 吉則・丹野 富雄・横川 庄栄\*\*

(山形県立園芸試験場・\*酒田農業改良普及所・\*\*山形県園芸特産課)

Method of Forcing Culture of Udo Kept Semi-Green.

2. Planting density on cultivation of rootstocks.

Toshihiro FUNAKOSHI, Masanori ITOH\*, Yoshinori KURODA

Tomio TANNO and Shouei YOKOKAWA\*\*.

( Yamagata Prefectural Horticultural Experiment Station \*Sakata  
Agricultural Extension Service Station・\*\*Horticultural and Special  
Productive Section of Yamagata Prefectural Government Office )

K<sub>2</sub>O : 6.7

<N : 10 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> : 10 K<sub>2</sub>O : 10>

#### 1 はじめに

山形県においてウドの半緑化促成栽培は、特に冬期間の収入源として注目されている。しかし、促成栽培についての技術が未確立なため、筆者らは促成用根株の養成方法や促成方法について検討を行っている。その中で、今回は、根株養成における栽植様式について検討した結果について報告する。

- 5) 株掘り上げ 11月13日<11月14日>
- 6) 保存 野積みわらかけ
- 7) 伏せ込み 1月11日<1月9日>
- 8) 促成温度 20℃
- 9) 軟白資材 モミガラ (厚さ35cm)

#### 2 試験方法

- (1) 試験年次 1989年~1990年
- (2) 試験区の構成  
1989年度 うね幅 1.5m・2m  
株間 30cm・40cm・50cm  
1990年度 うね幅 1.2m・1.5m  
株間 40cm・50cm
- (3) 試験区の規模及び区制  
1区30株 (うち調査は5株), 2区制
- (4) 栽培概要< >内は1990年度  
1) 供試品種 愛知坊主系  
2) 植付時期 3月31日<3月30日>  
3) 苗の大きさ 150g 1芽苗<160g 1芽苗>  
4) 施肥量 (kg/10a) N : 10 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> : 8.3

#### 3 試験結果及び考察

##### (1) 1989年度

1) 根株の生育 (表1) うね幅1.5mと2mの各区を比較すると、根株重、芽数に差が見られなかった。このことから、1.5m以上のうね幅では根株の生育への影響が少ないと考えられる。

株間の比較では、株間が広くなるほど根株重が重く、大中芽数も増加する傾向にあり、特に50cm区が優れた。ただし、大中芽当り根株重は株間40cm区が優れ、50cm区が劣った。

2) 収量 (表2) 5株当りの商品本数、重量にはうね幅による差が見られず、株間による差が見られ、特に大中芽の多かった株間50cmが優れた。L以上割合は、株間40cm区が高かったが、これは、大中芽当りの根株重が大きかった事によるものと考えられた。

表1 根株の生育 (1989年) 調査月日: 11月30日

(1区5株, 2区平均)

うね幅 (m)	株間 (cm)	株重 (g)	芽*1						10 a 当り 大中芽 (個)	根数 (本)	Brix (%)	大中芽 当り 根株重 (g)
			大 (個)	中 (個)	大中計 (個)	小 (個)	くず (個)	計 (個)				
1.5	30	1,065	1.7	1.8	3.5	3.0	4.3	10.8	7,778	14.0	7.2	305
	40	1,418	3.1	1.1	4.2	2.2	3.5	9.9	7,000	16.5	9.2	337
	50	1,808	3.9	2.9	6.8	2.9	2.1	11.8	9,067	22.1	8.9	266
2.0	30	1,158	1.5	2.0	3.5	4.2	3.1	10.8	5,834	13.7	7.7	341
	40	1,377	2.6	1.4	4.0	3.4	3.1	11.0	5,000	15.4	8.4	347
	50	1,730	3.3	4.2	7.5	2.4	1.4	11.3	7,500	18.7	8.7	237

\*1 大: 太さ35mm以上 中: 太さ25mm以上 小: 太さ15mm以上 くず: 太さ15mm未満

表2 階級別収量 (1989ねん)

うね幅 (m)	株間 (cm)	5株当り (2区平均)														
		LL (220g~329)		L (219g~170)		M (169g~130)		S (129g~100)		くず (100g未満)		L以上	商品合計		10a当り収量	
		本数 (本)	重量 (g)	本数 (本)	重量 (g)	本数 (本)	重量 (g)	本数 (本)	重量 (g)	本数 (本)	重量 (g)	割合 (%)	本数 (本)	重量 (g)	本数 (本)	重量 (kg)
1.5	30	5	1,256	7.5	1,263	3.5	517	1.5	176	1	72	65.5	16.5	3,211	7,326	1,326
	40	8.5	2,146	5.5	780	3.5	550	1	120	0.5	46	75.6	18.5	3,935	6,142	1,311
	50	2.5	608	10.5	1,963	10.5	1,552	5.5	641	1.5	120	42.6	29	4,763	7,714	1,267
2.0	30	5	1,217	6.5	1,255	3.5	560	2	239	1	87	63.9	17	3,270	5,644	1,086
	40	9.5	2,408	5.5	1,048	4	610	0	0	0	0	78.4	19	4,066	4,750	1,016
	50	4.5	1,208	11	2,129	6.5	825	4	463	1.5	100	58.2	25.5	4,723	5,100	945

10a当り収量は、うね幅1.5m区が高かった。その中で、株間40cm区は30cmとほぼ同等の収量で、しかもL以上割合が高く、優れた。

このため、うね幅1.5m、株間40cmが良いと思われたが、うね幅による差が見られなかったことから、より狭いうね幅で次年度検討した。

(2) 1990年度

1)根株の生育 (表3) うね幅、株間とも広い区が株重重く、大中芽数が多かった。ただし、同じ栽植数ではうね幅より株間の影響が大きく、株間の広い区の根株の生育が優った。10a当りの大中芽数は、うね幅1.2m、株間50cm区が最も多かった。

2)収量 (表4) 1株当り商品収量は、伏せ込み根株重と同様に、1.5m-50cm>1.2m-50cm>1.5m-40cm>1.2m-40cmの順に多かった。L以上割合が高いのは、1.2m-50cm区及び1.5m-40cm区であった。1.5m-50cm区は、株重が約1700gで最も重かったが、萌芽数が他の区より多くなりすぎたためL以上割合が低くなったものと思われた。

10a当り収量は、うね幅1.2m、株間50cm区が最も多かった。また、収穫物の品質は、各区大きな差は見られずいずれも良好であった (データ略)。

以上の事から、根株養成における適正な栽植様式は、うね幅1.2m、株間50cmがよいと考えられる。

表3 根株の生育 (1990年) 調査日: 11月14日

うね幅 (m)	株間 (cm)	株重 (g)	芽*1							10a当り 大中芽 (個)	根数 (本)	大中芽 当り 根株重 (g)
			大	中	大中計	小	くず	計				
			(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)				
1.2	40	1,133	0.1	2.5	2.6	2.1	4.1	8.8	5,416	13.3	436	
	50	1,545	0.5	3.6	4.1	2.6	2.3	9.0	6,830	16.3	377	
1.5	40	1,347	0.2	3.0	3.2	2.3	4.5	10.0	5,331	15.4	421	
	50	1,699	1.1	3.1	4.2	2.2	3.7	10.1	5,598	16.5	404	

\*1 大: 太さ35mm以上 中: 太さ25mm以上 小: 太さ15mm以上 くず: 太さ15mm未満

表4 階級別収量 (1990年)

うね幅 (m)	株間 (cm)	5株当り (2区平均)														
		LL (220g~329)		L (219g~170)		M (169g~130)		S (129g~100)		くず (100g未満)		10a当り 大中芽	商品合計		10a当り収量	
		本数 (本)	重量 (g)	本数 (本)	重量 (g)	本数 (本)	重量 (g)	本数 (本)	重量 (g)	本数 (本)	重量 (g)	(%)	本数 (本)	重量 (g)	本数 (本)	重量 (g)
1.2	40	5.5	1,487	4.5	894	2	292	1	57	2	179	66.7	12	2,730	5,000	1,137
	50	9	2,319	7.5	1,467	3	460	0	0	1	85	80.5	19.5	4,245	6,500	1,415
1.5	40	8.5	2,242	5	975	3	458	0.5	64	0	0	79.4	17	3,739	5,667	1,247
	50	11	2,793	6	1,178	4	590	1	121	1.5	122	72.3	22	4,681	5,867	1,248

4 ま と め

ウド半緑化促成栽培のための根株養成における適正な栽植様式について検討した。その結果、うね幅1.2m、株間

50cmがよいと思われた。

また、促成に適する根株は、株重が1300~1500g程度で、太さ25mm以上の芽が約4芽着生している株であることがわかった。